フィリピン留学だより⑧

2018 年 3 月 10 日

昨年 4 月 22 日ウエルネスプラザで、4 年間の支援に応え「取手ありがとうコンサート」を実現した NPO「セブンスピリット」と、一年ぶりに再会する日。地域の小中高校からプレゼントの本・楽器・文具をもって訪問。今日は交流会、17 日に一人ひとりの生活の困難と夢を聴くインタビューを行います。

“7Spirit のハンドサインで記念写真

永田さんのプレゼンで厳しい現実を知る…

交流会の前、子どもの音楽指導と指揮担当の永田さんから画像による「セブ島の子どもを取りまく現実」をうかがいました。「セブ島は 6 人に 1 人が一日 200 円以下の生活。8～12 人兄弟でその日生き抜く食料を分け合います。親が面倒見切れない子どもは路上に集団で暮らし、将来を考えるゆとりはなく、現金になる麻薬・犯罪に陥りやすい。貧しい子は怠惰ではありません。写真はマックの明かりを頼りに路上で勉強する男の子です。勉強のきっかけがあれば、勉強して将来の夢を持てるようになりたいんです。

ドライブスルーの路上で勉強する子を説明

田中宏明代表へ地域のプレゼントを贈ります

2 月の取手駅西口募金まで、1 年に集まった募金 6 万円を田中代表に贈呈。留学生がトランペット 6 台を含む楽器、本、文具類を子どもたちに手渡しました。日本語や音楽の練習に役立て、次回の取手コンサートを願って。2 大学では、楽団のオーデションに合格すると学費が無料になるそうです。スラムから大学進学、プロへと夢が広がります。

地域からの募金と教材類・楽器を田中代表へ

3 つのコーナーで遊ぼう

早速、30 人の子どもたちは、3 班にわかれ、「絵本読み聞かせ紙相撲」「シャボン・折り紙」「福笑い」コーナーを巡りました。とても真剣に遊びに熱中してくれました。

さらに成長したオーケストラ

最後は、子どもたちの演奏で、映画「美女と野獣」「アラジン」などを披露。日本語で「ともだちはいいもんだ」を歌った際は、実習中の大学生たちも涙するほどでした。

子どもたちは上達した音楽をプレゼント